

太宰府市俳句。ホスト第百十回入選者

(令和三年二月十日〜令和三年五月四日)

選者 阿比留 初見

入選句

拍手の二拍に力春の空

(筑紫野市)

笹倉 裕子

春光に包まれ巫女の奉書髪

(小郡市)

斉田 日奈江

青空に誘はれいでて芹をつむ

(太宰府市)

宮原 素子

せせらぎの小石にあそぶ雀の子

(福津市)

柴田 佳津子

控へめにまた控へめに花楓

(うきは市)

中川 寿朗

こぼれくる鳥語に宮の春惜む

(福岡市)

河野 京子

史蹟野の風がもてなす花の客

(福岡市)

西村 芳山

撫で牛の陰を通りて猫の恋

(福岡市)

斎藤 真左樹

晴天の風の奏でる樟若葉

(那珂川市)

池田 ひさ絵

神苑の眩しさにゐて若葉風

(大野城市)

北 喜与子

曇天を払う眩しき金鳳華

(春日市)

永利 五十鈴

人々のいこへる川辺風光る

(福岡市)

永光 野乃佳

吾子結び揺るる末吉春日影

(大野城市)

沖田 穂乃花

撮る人も撮らるる人も花の下

(太宰府市)

瀧田 緑

宿祢碑の静謐深し糸桜

(太宰府市)

中島 祝乃

みれいちゃんもうすぐしようがくいちねんせい

(埼玉県)

よしの みれい 六歳

ぶらんこではるかぜをきるいいきもち

(福岡市)

山本 かの 七歳

うめがえもちをたべながらみるうめの花

(久留米市)

辻田 隼悟 九歳

ねむたいな気持ちいいな春の風

(福岡市)

今村 一斗 十歳

満開の桜なみきをかけぬける

(筑紫野市)

うしろがわしんじ十一歳